

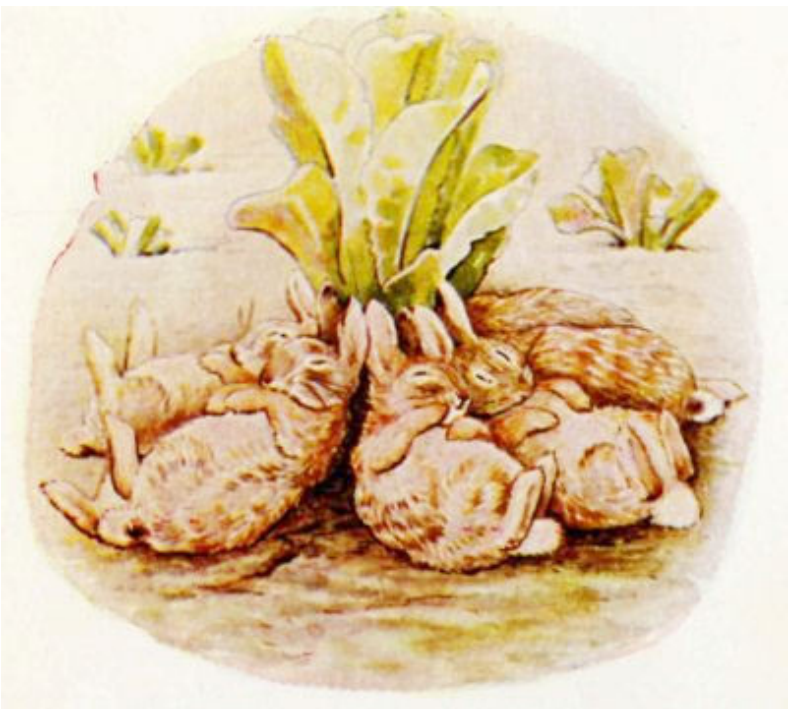
ばにばにきょうだいのはなし

THE TALE OF THE FLOPSY BUNNIES

ベアトリクス・ポッター Beatrix Potter
おおくぼゆう [やへ]

の
ち
い
さ
な
お
と
も
だ
ち
み
ん
な
へ
マ
グ
レ
ガ
ー
さ
ん
と
ピ
ー
タ
ー
と
ベ
ン
ジ
ヤ
ミ
ン





なんでも レタスを たべすぎると “さいみんこうか” が あるそうです。

わたしは レタスを たべても ねむくなんか
ありませんが、 そうはいつでも わたしは あ
なうさぎでは ありません。

さいみんこうかが てきめんだったのは、 な
によりも ばにばにきょうだいの ことなので
す！



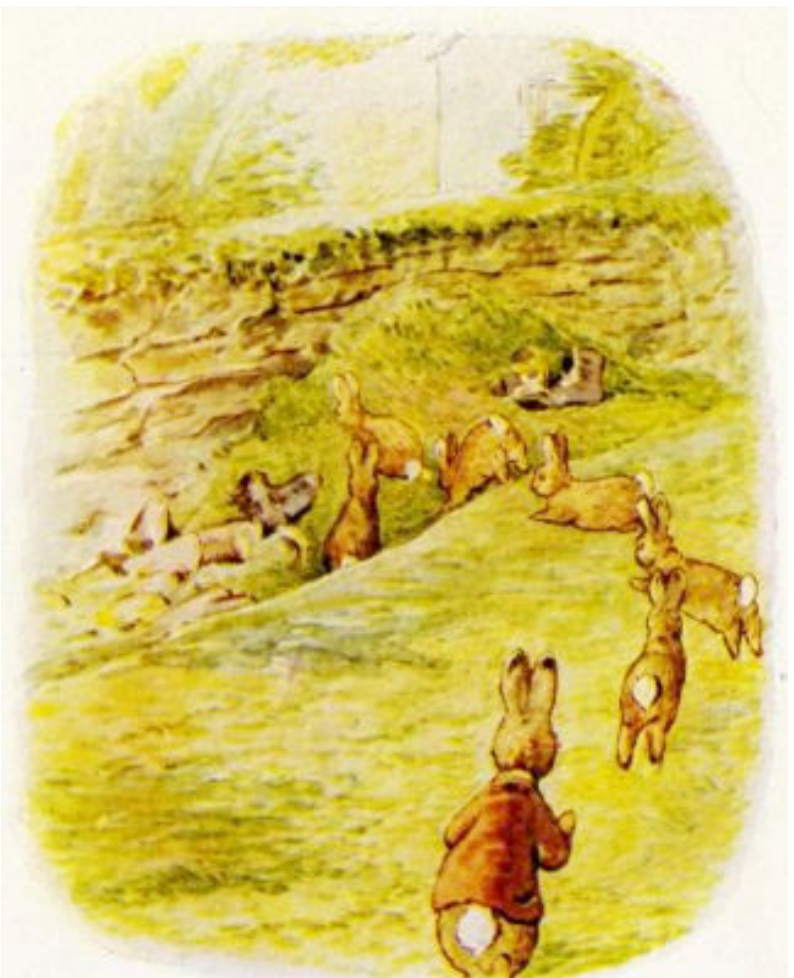
おとなに なった ばにばにベンジャミンは
いとこの フロプシーと むすばれました。だ
いかぞくを つくったこともあって、 せいかつ
は かつかっでしたが とても にぎやかでした。
こどもたちの それぞれの なまえは わすれ
てしまいました、 まとめて フロプシーさん
とこの ばにばにきょうだいと よばれています。



いつも まんぞくに たべられたわけでは あ
りませんので ーー ベンジャミンは はたけを
もっている フロプシーの おにいさん、 あな
うさピーターのところへ いっては、 よく
キャベツを いただいていたものです。



たまに あなうさピーターのところにも わけ
る キャベツの ないことが ありました。



そういうときには　ばにばにきようだいが　の
はらを　こえて、　マグレガーおじさんの　おに
わの　うらにある　おほりの　なかの　ごみやま
へと　むかいます。

マグレガーおじさんの　ごみやまは　ごちやま
ぜに　なっていて、　ジャムのびんが　あつたり
かみぶくろが　あつたり、　はたまた　しばかり
きに　かられた　くさの　かたまり　（これは
いつも　べとべとで）、　それから　くさった
ペポカボチャが　ころころ、　はきふるしの

ブーツが ひとつふたつ。 ところが あるひ

―― なんといいことでしょう！ ―― そだち

すぎて はなまで さかせてしまった レタスが

まとまったかず みつかったのです。



ばにばにきようだい は それはもう レタスを
たらふく たべました。 すると じゅんじゅん
に 1ぴき また1ぴきと ねむけに まけて、
かられた しばのうえに そのまま たおれてい
きます。



ベンジヤミンは こどもたちほど やすやすと
まけはせずに、 おちてしまうまえ あたまに
かみぶくろを かぶって はえよけにするくらい
には めを あけて もちこたえていました。



ばにばにきようだいは あたたかい ひぎしの
もと すやすやと ねむっています。 おにわの
むこうの しばちからは とおく しばかりきの
カタカタという おとが きこえてきます。 お
ほりの へりのあたりで あおばえが ぶんぶん
いたり、 1ぴきの ちいさな おばさんねず
みが ジャムのびん ふきんの ごみを あさつ
たり していました。

（わたしには なまえも わかりますよ、 おね
ずみトマシーナ、 おっぽの ながい もりねず
みです。）



そのねずみさんが かみぶくろのうえを は
しったので、 ばにばにベンジャミンが めを
さしました。 ねずみさんは ふかく おわび
して、 じぶんは あなうさピーターの しりあ
いだと つげます。



ねずみと ベンジャミンが へりのすぐしたあたりで しやべっていると、 あたまのうえから ずっしりした あしおとが きこえてきました。するとふいに マグレガーおじさんが かりとつた しばを どっさりと、 ねむっている ばに ばにきょうだいの まうえに あけだしたので す！ ベンジャミンは かみぶくろに かくれて ちぢみあがりました。 ねずみさんは ジャムの びんに みを かくしました。



こうさぎたちは くさの ふりそそぐなか き
もちよさそうに にやにやと おやすみしていま
す。 レタスの さいみんこうかが つよかった
ので、 めざめることは ありません。

みんな ゆめのなかで、 ママの フロプシー
に ほしぐさの ベッドへ おしこまれているの
です。

マグレガーおじさんは ふくろのなかを みんな
な ぶちまけたあと、 したを のぞきこみまし
た。 すると おもしろいことに くさのやまか
ら ぴよこんと ちやいろいろ こみみのさきが
とびだしているのが みえるのです。 しばらく
じろりと ねめつけました。



やがて そのひとつに はえが とまると み
みが ぴくりとしました。

マグレガーおじさんは ごみのやままで よじ
おりて ——

「ひい、ふう、みい、よお！ いつ！ むう
も こうさぎ！」と いいながら、 つかんで
ふくろのなかへ いれていきます。 ばにばに
きょうだいの ゆめのなかでは ママに ベッド
のうえで ねがえりを うたされたことになっ
ていました。 ねむっている あいだに ちよつ
とくらい じやまが あっても、 やつぱり め
は さめないのです。



マグレガーおじさんは ふくろを しばると、
おほりのうえに おいて そのばを はなれまし
た。

しばかりきを かたづけに いったのです。



そのあいだに（おうちで　るすばんを　して
いた）　ママの　ばにばにフロプシーが　のはら
を　ぬけて　やってきました。

ふしぎそうに　ふくろを　ながめて、　みんな
どこへ　いったんだろうと　おもいました。



すると ねずみさんが ジャムのびんから で
てきて、 ベンジャミンも かぶっていた かみ
ぶくろを はずして、 ふたりして なげかわし
い いちぶしじゅうを かたります。

ベンジャミンと フロプシーには どうするこ
とも できません。 ひもを ほどこうにも む
りなのです。

けれども おねずみおばさんは あたまの は
たらく かたでした。 ふくろの そこを か
じって あなを あけたのです。

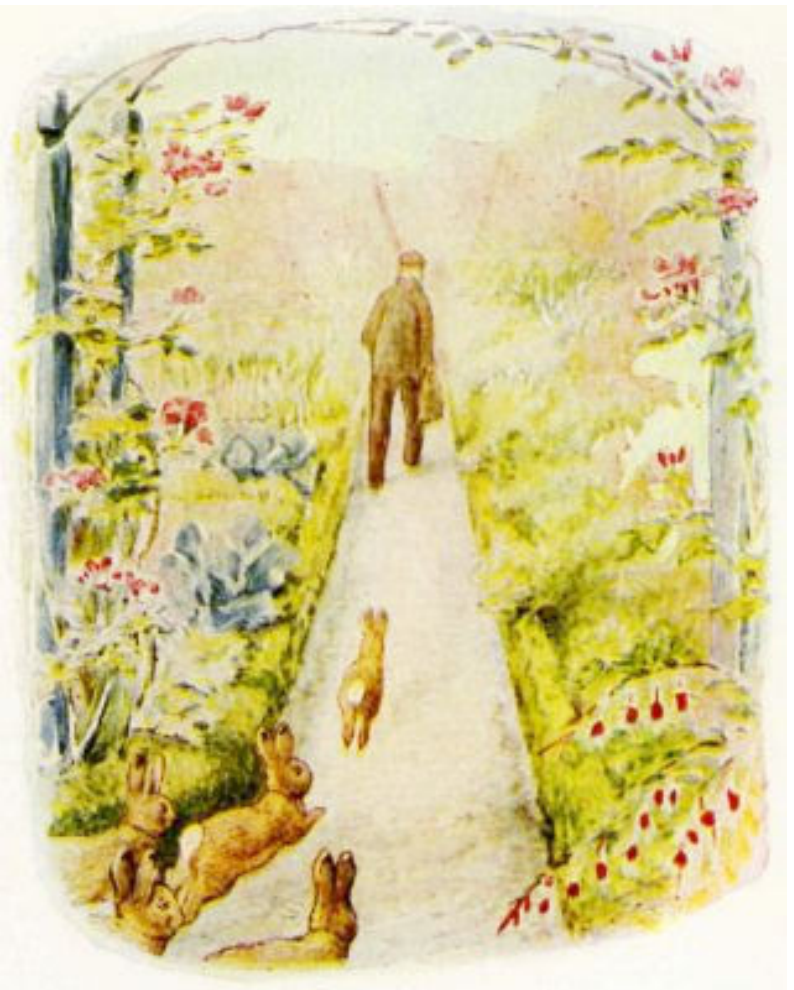


こうさぎたちは ひきずりだされ、 たたきお
こされました。

パパと ママは からのふくろに くさった
ペポカボチャ みつと つかいふるしの くつ
ブラシを ひとつ、 いたんだ カブを ふたつ
つめこみます。



そして みんなして しげみに かくれ、 マ
グレガーおじさんが くるのを まちうけました。



マグレガーおじさんは もどつてくると ふく
ろを とりあげて もちさります。

そうとう おもたいのか てから ぶらんぶら
ん。

ばにばにきょうだい は うまく あいだをとつ
て あとを おいかけます。



おうちに はいっていくのが みえました。
それから まどに にじりよって ききみみを
たてます。



マグレガーおじさんは いしじきの ゆかに
ふくろを なげおろしました。 あれでは ばに
ばにきようだいが はいっていようものなら お
おけがしていたでしょう。

きこえてくるのは ゆかのうえに いすを ひ
きずる おとと ほくそえむ こえ ——
「ひい、 ふう、 みい、 よお、 いつ、 むうも
こうさぎ！」と マグレガーおじさん。



「なに、どうしたのさ？　なんだって　そんなに
うかれてんだい？」と　マグレガーおばさんが
たずねました。

「ひい、ふう、みい、よお、いつ、むうも
ぷりぷり　こうさぎよ！」と　マグレガーおじさ
んは　ゆびおりしながら　くりかえします。「ひ
い、ふう、みい　――」

「ばかは　およしよ。　なんの　つもりだい、い
かれ　じいさんや。」

「ふくろんなかよ！　ひい、ふう、みい、よ

お、いつ、むう！」と　こたえる　マグレガー
おじさん。

（そのとき、　ばにばにきようだいの　すえっこ
が　まどの　したわくに　あがりました。）



マグレガーおばさんは　ふくろを　つかんで
さわってみたのですが、　どうも　たしかに　6
ぴき　いるけれども、　よばよぼの　うさぎじや
ないのか、　かちこちで　みんな　かたちが　ふ
ぞろいだよと　いいます。

「たべるにや　むかないね。　でも　けがわは　あ

たしのおふるの コートの うらじに する
にやあ もってこいかも。」

「コートの うらじだと？」と マグレガーおじさん
は こえを はりあげます。「こいつは うつ
ぱらって わしの たばこだいに するんよ。」
「うさぎたばこに おし！ さて、 けがわを
はいで くびを もぐと するかね。」



マグレガーおばさんが ふくろの ひもを ほ
どいて てを なかに いれます。

じぶんの さわっているのが やさいと わか
ると、 ぶんすかと おこりだしました。 マグレ
ガーおじさんに 「わぎと やったのか」とまで
いうのです。



すると マグレガーおじさんも ぶんすか。
くさった ペポカボチャが ひとつ ちゅうを
とんで、 だいどころの まどの ところを ぬ
け、 ばにばにきょうだいの すえっこに ぶち
あたりました。
いたいの なんの。



そこで ベンジャミンと フロプシーは もう
うちに かえったほうが いいと おもいました。



こうして マグレガーおじさんは たばこが
てに はいらず、 マグレガーおばさんも うさ
ぎの けがわを てに いれそこないました。
けれども つぎの クリスマス、 おねずみト
マシーナは うさぎの けいとを もらいました。
しかも じぶんの コートや ずきん、 お
しやれな マフや あたたかい てぶくろを み
んな つくれるくらい たくさん。

(おしまい)

翻訳の底本：Beatrix Potter ”The Tale of Flopsy Bunnies” (1909)

上記の翻訳底本は、著作権が失効しています。

翻訳者：大久保ゆう

※この翻訳は「クリエイティブ・コモンズ 表示 2.1 日本 ライセンス」

(<http://creativecommons.org/licenses/by/2.1/jp/>) によって公開されています。

上記のライセンスに従って、訳者に断りなく自由に利用・複製・再配布することができます。

※翻訳者のホームページは、<http://www.alz.jp/221b/> にあります。作品・翻訳の最新情報やお問い合わせは青空文庫ではなく、こちらをお願いします。

2010 年 1 月 30 日翻訳

2010 年 2 月 10 日修正

2010 年 3 月 14 日微修正

2010 年 3 月 14 日ファイル作成

青空文庫提供ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>) へ提供されています。

